

東京学芸大学附属国際中等教育学校

ソーシャルアクションチーム (SAT)



高校生ボランティア・アワード
2020

Vision 理念

中高生があたりまえに参画できる社会を実現する。

Mission 使命

中高生が参画しやすい社会を創るために、
中高生のモデルとなる。

世の中には、社会の課題に貢献したい！世界をよりよく変えたい！
というやる気や想い、アイデアをもっているユースがたくさんいます。

しかしながら世間の常識や思い込みによってその想いがつぶされてしまっている現状があるのではないのでしょうか。
たとえば、周りに社会貢献活動をしている中高生がいないために、「私たちにはできないかも」と活動を始めることをためらってしまったり。まわりの大人に「中高生がそれをやるのは難しいんじゃない？」と過小評価されてしまったり。

運動をしたいからサッカー部に入る、音楽をしたいから管弦楽部に入る。それと同じように、中高生の立場から社会をよりよくしたいから社会課題に取り組む。このことがもっとあたりまえな社会を実現することが、わたしたちの理念であり使命です。

以下で紹介する私たちの活動で、同じ志を持つ中高生のモチベーションや勇気なれば幸いです。

「多岐にわたる社会貢献活動」

活動実績

今後の展望

jimoto チーム



jimoTALK 2020 Summer

地域とつながることの魅力や面白さを中高生に知ってもらい、中高生が地域活性化の原動力になることを目指して活動しているjimotoチーム。私たちは今までに4つの地域を訪問し、それぞれの地域の魅力や課題を発見し、その解決にむけて活動してきました。
＜SATが過去に訪問した地域＞2011年の震災で被害を受けた宮城県女川町、SATと繋がりがあったNPO法人の拠点地長野県上田市、学校が所在している東京都練馬区、そして、顧問の先生とつながりが深い山梨県小菅村。
残念ながら、今年は新型コロナウイルスの流行により地域を訪問することができませんでした。しかし8-9月に、三回に亘るオンラインイベント「jimoTALK 2020 Summer」を開催し、全国から中高生参加者が集い、中高生なりの地域創生について深めるとても良い機会にすることができました。

『キョテン(拠点)』

「jimoTALK 2020 Summer」第三弾でご登壇いただいたゲスト(雑誌「ソコト」の編集長)のお話からヒントを得て、ソーシャルアクションチームをはじめとする中高生が、地域とつながる拠点づくりに取り組んでいます。
現在は、拠点となりうる練馬区(学校付近)の空き家を探したり、どんなコンセプトにするかを話し合ったり、区役所へ相談しに行ったりしています。

ケニア学校建設チーム



街頭募金、クラフト封筒販売

2019年に始まった「ケニア学校建設プロジェクト」。ケニアでは少し前に学校が無償化しましたが、学費はかからなくても様々な理由で途中で退学する人が多いようです。例えば、先生の人手不足だったり、家事を手伝うために学校に行けなくなったり、学校の校舎やトイレがとも古くなって使えなくなったり、などです。
私たちはこれらの教育課題に対して、学校の校舎建設に必要な建設費を300万円集めることを目標としています。募金活動をする中で、現地への直接的な支援ができることと、日本国内の寄付者にケニアの教育の現状を啓発することができます。
昨年度は学校の入り口や最寄り駅前街頭募金を実施したり、学園祭で手作りのクラフト封筒を販売したりし、合計で15万4,700円の金額が集まりました。目標金額まではまだまだ届きませんが、以前より「寄付を募る」ということに関する知識と経験が付きました。

クラウドファンディング、啓発イベント

昨年度の街頭募金学びから、「もっと規模を大きくして資金を集めよう」ということになり、今年はクラウドファンディングに挑戦することにしました。クラウドファンディングは現在計画中です。

また募金を募ると同時に、啓発活動にも力を入れています。現在年内に中高生向けの啓発イベントを開催するための準備を進めています。

Giving チーム



寄付月間企画 イベント『キフ・ダイアログ』

寄付文化を啓発するGivingチーム。(寄付の啓発キャンペーン「寄付月間 Giving December」にちむ。)
Givingチームは過去に、寄付付きラインスタンプを共同開発したり、寄付の啓発イベント「Kifu no Chikara Fes」を主催したり、寄付に関する想いを葉っぱにたくして幹にはり寄付の木を育てるワークショップ「Giving Tree」を実施してきました。
昨年の12月は、補助犬や食糧支援、仮想通貨、フェアトレードなど、多様な分野で活躍するソーシャルセクターたちをイベントにお呼びし、各分野でおこっている「いま」の寄付や社会貢献について伺い、「10年後」の寄付と社会貢献について想像しながら深める有意義な時間となりました。リアルで情熱的なダイアログ(対話)に、未来のソーシャルアクションへの期待が膨らみました。
今年は、寄付を身近・気軽に感じてもらえるような社会を実現すること、また世の中に存在する寄付への様々な誤解を解くことを目標に活動しています。

寄付を題材にした絵本制作、様々な寄付の紹介

現在、子供たちに寄付の大切さを知ってもらうために、小学生向けの絵本制作に取り組んでいます。

また、今後はSATのInstagramをとおして、世の中に存在する様々な「寄付」を紹介していきます。気になる方は、ポスター左下の欄からSATのInstagramアカウントをフォローしてください☆

環境 チーム



部内勉強会

環境問題を自身の暮らしとリンクし、ジブンゴトとしてとらえられる世の中を創ることを目標にした活動をするため、今年から始まった環境チーム。

森林保全団体「moreTrees」の方をゲストとしてお呼びした勉強会を実施しました。

勉強会では、日本の森林は今どのような課題を抱えているのか、世界的な森林の減少はどのくらい深刻なのか、森林保全団体では現在どのような事業を行っているのかを学びました。その後、「私たち中高生にはどのようなアクションが起こせるか、他のユースを巻き込むにはどんな活動ができるのか」をアイデア出ししました。

木系ハンカチの商品化

「ハンカチなら、中高生にとっても身近なアイテムだよ！」ということで、国産の木系を使ったハンカチの商品化をする予定です。

将来を担う中高生として、環境問題に対する意識をしっかりと持つことは大切です。しかしながら、中高生にとって「環境問題」はスケールが大きく、身近に感じにくい課題です。これから商品化するハンカチを通して、より多くの若者が環境問題をじぶんごととして捉えきつかけにできれば幸いです！

フェアトレードチーム



フェアトレードクイズ制作

フェアトレードとは直訳すると「公平・公正な貿易」になります。つまり、開発途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することにより、立場の弱い開発途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す「貿易のしくみ」をいいます。(引用:フェアトレードラベルジャパン)

これらの仕組みを守って生産された商品には、そのしるしとして認証ラベルがつけられます。意外と身近に存在しているフェアトレード商品ですが、我々先進国に住む消費者には、フェアトレード商品を購入して仕組みの循環に貢献するという大切な役割があります。

私たち中高生をはじめとする多くの人々がフェアトレードに興味を持てるようにするため、ラベル認証を行っている「フェアトレード・ラベル・ジャパン」と共同でオンラインのフェアトレードクイズを作成しました。

※現在検討中

SNSとウェブサイトにて活動・情報発信中！！

Instagram: tguiss_sat
Facebook: 東京学芸大学附属国際中等教育学校ボランティア部
ウェブサイトURL: www.tguissvt.com
ウェブサイトQRコード:



活動団体プロフィール

- 2009年 「東京学芸大学附属国際中等教育学校ボランティア部」として創立。
- 2019年 創立10周年をむかえ、そのボランティアにとどまらない活動から、「ソーシャルアクションチーム」と改称。
- 2020年 約30名の部員で、5つのプロジェクトを進める。